

1 学校教育目標

- 進んで学ぶ生徒
- 心豊かな生徒
- たくましい生徒

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な学習内容を重視し、確かな学力を身に付けさせる学校 ○よりよい社会を創造する主権者としての知識・資質・豊かな心を身につけられる学校 ○学校情報を適宜発信し、保護者・地域の人々と協働しながら教育を推進していく学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○学ぶ意欲と向上心をもち、生涯にわたって逆境に負けず、前向きに生きようとする生徒 ○思いやりの心、命を大切に作る心、規範意識、連帯感、自己肯定感、平和を愛する心など豊かな心をもった生徒 ○社会状況の変化に対応し、地域・社会に貢献できる力をもった生徒
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人一人の個性や多様性を把握し、生徒の可能性を引き出し、豊かな心を育んでいく教師 ○教育公務員として使命と責任を自覚して、情熱をもって職務に努める教師 ○「地域にある学校」を意識し、地域や保護者と連携しながら生徒の社会的自立に必要な力を育んでいく教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

〈学校〉

現状：教師・生徒の信頼関係を築きながら、きめ細かく丁寧な指導を行っており、落ち着いた環境である。

学校行事や学年行事、部活動、ボランティア活動には、生徒が積極的に取り組んでいる。

成果：「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業研究・授業改善に取り組んでいる。

学力向上に向けて ICT 機器の活用や「足立スタンダード」に基づいた授業実践、補充教室についての取り組みを工夫している。

規範意識や人権尊重、母校を大切に作る意識はとても高く、生活指導面では落ち着いている。

特別な支援を必要とする生徒や不登校生徒への対応策について、外部機関と連携しながら実践することができている。

課題：①基礎学力の確実な定着と向上

②「思考力・判断力・表現力」を育成する授業実践

③特別な支援を必要とする生徒や不登校生徒への対応

〈生徒〉

現状：純朴で明るく、学校行事や美化活動、ボランティア活動、部活動によく取り組んでいる。全体として、授業に臨む姿勢もよい。

成果：「伊興中でよかった」という生徒が88%。全体として落ち着いた授業が展開でき、生徒間のトラブルも減少している。

課題：①学習の必要性を認識して、基礎学力の定着・向上に努める。

②生徒自らが考え、学び、行動する力の育成。

③粘り強く取り組み、困難を乗り越える力の育成。

〈教師〉

現状：若手教師が半数以上で、活気があり、授業改善に意欲的である。生徒・保護者に寄り添って指導している姿が多く見られる。

成果：学習指導要領「主体的な学び」「指導と評価の一体化」についての区中研教科研修や小中連携研修、年次研究授業、校内研究授業、ICT 機器活用の取り組み等により授業改善の意識が高まっている。

- 課題：①基礎学力の定着と向上 下位層の底上げ
 ②「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善
 ③学年セクトではない、学校全体としての組織的対応

〈保護者・地域〉

現状：保護者（PTA・おやじの会）や地域の方々は、創立以来本校に愛着があり、協力・支援体制が強い。開かれた学校づくり協議会委員の方には、生徒に活躍する場を提供していただくなど全面的な協力体制がある。

成果：PTA・おやじの会主催による「いこう彰風まつり」が10月に実施できた。また、開かれた学校づくり協議会も定期的を開催し、教員、生徒との意見交換ができた。12月には3年生面接練習をサポートしていただいた。

- 課題：①学校、PTA、開かれた学校づくり協議会との連携を引き続き図り、地域に根ざした学校をつくる。
 ②保護者の皆様に、学校公開や学校の様子を随時発信し、ご理解とご協力を頂けるような教育活動を展開していく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成と社会的自立心の確立	○	○	○	○	○
3	教師の指導力向上と信頼される学校作り	○	○	○	○	○
4		○	○	○	○	○

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン		
A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●
生徒の学習意欲を高めるとともに、基礎・基本を確実に身に付けさせ、学力向上を図る。	令和6年度区調査通過率 60%		自己評価の際に記入	

B 目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)
1 継続	放課後補充 学習	全学年 5教科で 補充を必 要とする 生徒	月・火・ 木・金曜 日 放 課 後 2 5 分 1 週 間 を 目 安 に 教 科 毎 に 実 施	<p>【指導体制】教科担任、学 年所属教員</p> <p>【取り組みのねらい・目 的】・各教科の単元テス ト・小テストで理解が不 十分な生徒に対して指導す る。(5教科)</p> <p>・家庭学習 AI ドリルの未 履修生徒に対して指導す る。(5教科：月国 火数 水英 木社 金理)</p> <p>・各種コンテスト(英数国) を行い、基準をクリアでき ない生徒に対してAIドリ ルを活用した補充を行い、 合格させる。</p> <p>【使用教材】AIドリル プリント教材</p>	<p>各教科の単 元・小テスト・ 各種コンテス トの再テスト</p> <p>活用数の点検 (AIドリル)</p> <p>教員・生徒ア ンケート</p>	<p>定期考査、単元 テスト、小テス トで基礎・基本 問題の習得</p> <p>テスト結果よ り、80%が目 標値を通過す る。</p>
継続	朝読書	全学年 朝読書	毎日 登 校 後 8 時 2 5 分 ~ 3 5 分 ま だ の 1 0 分 間	<p>【指導体制】学級担任</p> <p>【取り組みのねらい・目 的】・全学年10分間読書 を行い、集中力と読む力をつ ける。</p> <p>学校図書館司書と連携し、 図書館利用率を上げる。</p> <p>【使用教材】読書用本</p>	<p>毎日の点検</p> <p>図書館貸出冊 数調査</p> <p>教員・生徒ア ンケート</p>	<p>朝読書により、 落ち着いて読 む習慣と授業 への集中力を 高める。 学校図書館貸 出冊数を月350 冊以上。</p>

自己評価の際に記入

継続	家庭学習	全生徒 全教科	毎日 (土,日 も含む)	<p>【指導体制】学年所属職員</p> <p>【取り組みのねらい・目的】AIドリルは20分程度でできる内容でワークブックを作成し、5教科で配信する。(月国 火数 水 英木社 金理)</p> <p>【使用教材】AIドリルワークブック</p>	AIドリル活用状況を学習進路部で確認する。	AIドリル未履修者に対しては、放課後補充教室で指導する。			
継続	読解力向上	全生徒 総合的な学習	年10回 程度	<p>【指導体制】学年所属職員</p> <p>【取り組みのねらい・目的】全学年新聞記事「天声こども語・天声人語」に取り組む。</p> <p>【使用教材】天声こども語ノート(1年)、新聞記事読解プリント(2,3年)</p>	毎回の点検 教員・生徒アンケート	天声人語ノート及び新聞記事読解プリント提出率80% 読解力の向上を目指す。			
継続	ICT機器を活用した足立標準の徹底	全学年・ 全教科	年間を 通して	<p>【指導体制】教務部(ICT推進委員会)で企画・運営</p> <p>【取り組みのねらい・目的】足立スタンダード推進委員会が中心となり、ICT推進委員会と連携して足立スタンダードのテーマを設定し、生徒一人一台のタブレット活用した校内研修会を実施する。全員一人1回の研究授業の実施。</p>	実施回数 教員・生徒アンケート	全教員が最低1回以上足立スタンダードのテーマに沿った研究授業を実施する。また、ICT機器を活用した授業を公開する。			

重点的な取組事項－２		豊かな心の育成と社会的自立心の確立			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
生徒自らよりよい学校づくりに参画し、いじめのない「笑顔あふれる学校」「学校に登校するのが楽しいと思える学校」をつくる	アンケートで「伊興中の生徒でよかったと思う」と90%以上の生徒が回答する。	自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
人権への配慮と豊かな心の育成	「相手の気持ちを受け止め、自分の考えを相手に伝えることができている」と、生徒の80%以上が回答する。	道徳の授業、校長講話など「心の教育」「人権について考える教育」を全教育活動で推進する。いじめアンケートやWEBQUでの早期発見と校内委員会を中心とした組織的な対応を継続する。	自己評価の際に記入		
社会的自立心の確立 凡事徹底	「挨拶する」「生徒会や委員会・係活動、ボランティア活動に積極的に取り組んでいる」と生徒の90%以上が回答。	日常的なマナー・ルールの凡事徹底。「校則について」「委員会活動」など生徒会を中心に生徒が主体的に考え、企画し、運営できる生徒を育成する。	自己評価の際に記入		

重点的な取組事項－３		教師の指導力向上と信頼される学校作り			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
教師の指導力向上と信頼される学校作り	アンケートで、90%以上の保護者「子どもを伊興中に入れてよかったと思う」と答える。	自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

教師の学習指導力の向上	「分からないところを丁寧に教えてくれる」「生徒用タブレットをよく活用している」と80%以上の生徒が答える。	全教員が年5回以上の授業研究に参加する。校内研修日を設定し、「主体的・対話的で深い学び」や「ICT活用」をテーマに研修し、授業力向上を目指す。	自己評価の際に記入		
教職員集団の育成と組織力の向上	教育活動や対外的な対応に、保護者へのアンケートで80%以上が満足していると回答する。	校務分掌の組織を見直し、学校全体で共通理解を図り、運営する。管理職・主幹教諭・主任教諭による若手教師のOJTを計画的に実施する。			
保護者、開かれた学校づくり協議会、地域と協働した信頼される学校作りとの協働	「学校は保護者や地域と一体になって教育活動を行っている」と保護者の80%が回答する。	開かれた学校づくり協議会・PTAと定期的に会議を持ち、学校と保護者・地域との連携を図る。各種たよりを定期的に発行する。保護者会、教育相談、協議会を計画的に実施する。			

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

(2) 保護者や地域へのメッセージ

自己評価の際に記入します。
 経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。

(3) その他（学校教育活動全般について）